2018 vol.43 秋号 源流からのたより



源流のひとしずく



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語 事務局長 尾上 忠大

2

思いをつなぐ川

数年で実感することがあります。 元が見えづらくなってきます。(笑)で どの普及のためでしょうか、ますます手 ようやく少しずつ見えてきたことをここ 私がここでの仕事に就いて17年目にな 「教材化」という言葉です。 当初には見えなかったことが、 歳のせいでしょうか、スマホな その一

その頃 頃、 らは2007年度に導入した「学べる屋 という教育雑誌の付録にあった実験玩具 当時の事務局長と話をしたものでした。 してみました。しかし「教材」というよ 台」の中で、いくつかの試みをカタチに になるようなジオラマなどでした。それ 森と水の源流館ができて2・3年目の 山に降った雨が地面に浸み込んで川 オリジナル教材を作りたいと、 展示物という感覚でした。 「教材」と聞いて私がイメージす 子どものとき『科学と学習 よく

き合いのできた小学校の先生方からヒン (本誌41号参照)やESDの関係でお付 森と水の源流館授業づくりセミナー

> を創作し続けなければいけないと考える 中身のあるというより、工夫のあるもの となりうる、いや「教材」として使える る広報物は、単なる広告ではなく「教材 をしてくれたことから、私たちが制作す に意識します。ある先生が当館のエコバ ていただける「教材化」ということを常 中で、今そういった先生方に授業で使っ ようになりました。 シ(広告入割箸)を使って、授業づくり トや気づく機会をいただくことが増えた

あげます。 「教材化」している主な広報ツー ・ルを

①エコバシ(「このお箸を使うことは

③おいしいお米をありがとうポスター ②冊子『思いをつなぐ川』『水をめぐる 森を守ることにつながります」メッ 物語』(紀の川流域の産業や人物紹介) セージ入り) (吉野川分水の多面的機能を解説)

など ④うた『水の旅のはなし (紀の川じるしのESDテーマソング)

なりうる要素が詰まっています。 た ほかにも、 「ダムカレー」のチラシなども教材に 川上村地域振興課が企画



くれています。 はなし』を歌いながらが楽しく学習して との大切さを教室のみんなで『水の旅の やってくることや、源流の自然を守るこ を届ける事業を行っていただいていま 市内の小学校に水源地の村から出前講座 会議員連盟のみなさまの取組で、 今年度、森林環境保全促進和歌山市議 毎日使う水が遠く離れた場所から 和歌山





1

み返したりと、それなりにすることもあ 山の話をしたり、 まきや柿の葉すしの手伝い、若者たちに のお祀りや、おかちゃんが季節に作るち を過ごしている。とはいえ、山の神さん んクラブ」を終え、 べて少しはゆっくりした毎日 の春に20年続けてきた「達ちゃ むかし書いたものを読 以前に比

らのわしの使命やと思ったんや。 とや山の話を次世代に語るのが、 するようになった。「達ちゃんクラブ」 の活動もおんなじで、今まで体験したこ んなところから頼まれて山や林業の話を 65歳で息子に譲り、 につき、その道一筋に歩んで しの人生は、15歳から山 きた。独立して興した会社は そのころから、 これか いろ [仕事

まうから、 よ。書くことで、だいたい話したいこと たら、ついアドリブをばっかり入れてし はうまく整理される。そやけど話し始め から書き始めた日記も、いまも続いとる かけてた。なんせ書くのは得意や。15歳 **ー**とんどなかったんで、 まで人前で話をすることがほ はいつも原稿を作ってから出 原稿のまま読むことは少な 講演に

20年前になるが、 会に向けた話だ。 にわたった掲載になると思う。かれこれ 話したいと思う。長いから、 があるから、 の原稿から、吉野林業につい っかく書き残している講演録 近畿地区緑化推進協議 今回は、講演録 何回か

> されています。この時代に樹 さが分かります。 る上でも吉野林業の歴史の古 ていたことは、木の文化を知 種別の適切な用途が認識され 木は柩(ひつぎ)に使うと記 ヒノキは御殿に、またマキの ギとクスの木は船の用材に、 く、日本書紀には 野 材の用途として、ス 林業の 歴 史は 木

域です。 木曽 三つの村で構成されている地 東吉野村、 流する吉野川の上流にあり、 は奈良県の中央部を東西に貫 吉野林業地帯といわれる地域 業を代表する樹種は吉野杉で、 三大美林の一つです。吉野林 のヒノキと並ぶ、日本の | と、みなさんご存じ 野林業と言います のとおり、秋田スギ、 黒滝村、 川上村で

年間から人工造林がされ たという歴史があります。 滝 約300年前の元禄年間、 いたそうです。東吉野村では でに杉の人工造林が行われて ろ)で、約500年前にはす 利時代の末期(1500年ご 一村では約400年前の慶長 して一番古いのは かでも植林の歴史と 川上村で文亀年間足 黒

達ちゃんが語る

⑰吉野林業

 \Diamond

 \Diamond

 \Diamond

「源 統学 子どもたちに伝えたい ~その1~

技術、 在の林業界で使用されている製 で最初の経験でもあります。 パワーを生み出したことも日 として確立されたのは吉野林業 え付け、 あたりまえのようになった林業 を背景とした木材産地として流 においてです。また人工林資源 います。 加工拠点を造成し、 間伐などが森林施業体系 たとえば種から育苗、 / 業は日本の林業のふる スギヒノキの混植、 事実、日本の林業では さとであるといわれて 経済的 植 現 枝

ち、15年ぐらいからは枝打ち、

4 m の高

ヒモ打

植栽後の保育が潔癖で植栽後3年間は2

3000本とは対象的であります。また

から1万本と極端な密植です。

国有林の

密植、多間伐、長伐期といって、 ,野林業の施業体系の特徴

最初の1haあたり9000本

回刈りを実行し、4~6年までは1回刈

10年ごろまでは、つる切り、

年の杉 数回、 中期、 ので間違いありません。徳川 蔵の時代に植えたものです。 在も300haぐらい残っていま 私の50年の山仕事の中で、 元禄年間ですので、 伐採出材を体験しました やヒノキ、人工造林が現 番 ありませんが、30 500年の人工造林 古 V Ш 上 村 忠臣 で 0)

ますが、ほとんどが民有林です。 ずに育ったのです。人工林 山です。田んぼが一枚もないの 面積が25000 hx、93%が haで、一部国有林も含まれてい 1 8 0 0 0 ha 2 7 0 私らは米の成る木を知ら 00hrで、そのうち森林 ■上村は一口に ,です。村の総面積 て、山ばっかりの んな村ですが、吉野林 天然林7000 V が 村 が 0

品規格、 ありました。 を経済市場で認知させたのも吉野林業で 無節や上小節一等といったものに加え 床柱製品の人工絞丸太といった商 例えば3m×10 . 5 の無角の三方



村有林「歴史の証人」

※連載では、「聞き書き」でコミュニティライターの西久保智美が担当します。

地だけは杉も枝打ちしています。 落枝だったのですが、人工絞丸太の生 ギの場合は密植するので、ほとんど自然 年までに6~8mの間打ち上げます。 さになるまでに3回程度、そして16~30

次回につづく)

ス

(留鳥)

5. エナガ Aegithalos caudatus (留鳥)

スズメより小さい。長い尾を柄杓の柄に見立てて名前が付いたと言われています。細い枝にぶら下がってエサを探すこともあります。木立の間でたたずんでいると、いつの間にか群れに囲まれ、やがて1羽1羽静かに移動していきます。ジュリジュリなどと鳴きます。



7. シジュウカラ Parus minor (留鳥)

スズメくらいの大きさ。胸から腹にかけて中央に1本黒いネクタイのような模様があります。足のところで幅の広い方がオスです。昆虫や種子を食べ、ツツピーツツピー、ジュクジュクジュクジュクなどと鳴きます。一種類の幼虫だけを食べると仮定した場合、1年間に85000頭を食べるという試算があります。



9. コジュケイ Bambusicola thoracicus (留鳥)

ムクドリより少し大きい。「チョットコイ、チョットコイ」と遠くで鳴き、近づくとまた遠くから聞こえ、姿を見ることはなかなかできません。



6. ヤマガラ Poecile varius

スズメくらいの大きさ。林に棲息し、昆虫、種子、木の実などを食べます。エゴノキの実は好物です。木の実を両足で押さえ、くちばしで割って食べます。ズービーズービー、ニーニーニーなどと鳴きます。人懐っこいかわいい野鳥です。川上村の鳥です。



8. イソヒヨドリ Monticola solitarius (留鳥)

ムクドリより大きい。全国の海岸の岩場に棲息していましたが、近年都市部や内陸部に分布を広げてきました。岩、ビルや屋根の一番高いところ、電柱の上などに止まり、尾をゆっくりと上下させ、飛ぶときはふわふわした飛び方で飛びます。特徴のある美声の持ち主です。



10. コゲラ Dendrocopos kizuki (留鳥)

スズメくらいの大きさの日本一小さいかわいいキツツキ。 市街地の街路樹や公園でも観察できます。白と黒のしま模 様がきれいです。昆虫や植物の実を探し、木の幹をぐるぐ る回りながら上がっていきます。ギィーッ、ギィーッと鳴 きながら飛ぶことが多いので、とても分かりやすいです。 幹に止まるときは、尾羽でしっかり支えています。





豊かな自然をささえる身近な野鳥 その1

多くの生き物が棲息する豊かな樹林に囲まれていますが、身近な野鳥はいつも私たちと一緒に生活しています。種子散布、花粉媒介、害虫等制御など私たちの生活に欠かすことのできない仲間ですが、姿を観察することはなかなかできません。気配を感じたり、囀りに季節を感じたり、癒され安らぎを覚えることがあります。そんな身近な野鳥を紹介します。

笹野 義一

野鳥は、一年を通してほぼ同じ地域に棲み、いつでも観ることのできる「留鳥」、春から初夏に南方から渡ってきて、多くは美しい囀りを聞かせてくれて、営巣・繁殖し、秋に温暖な越冬地へ渡っていく「夏鳥」、秋になると北方から越冬のために渡ってきて、春になると北方に渡って営巣・繁殖する「冬鳥」、春と秋の渡りの途中に日本に立ち寄る「旅鳥」に分類されます。野鳥を観察するときスズメ、ムクドリ、ハト、カラスの大きさを目安にするとわかりやすいです。

1. ツグミ Turdus naumanni (冬鳥)

ムクドリくらいの大きさ。北の方から冬鳥として渡ってきます。クエッ、クエッと鳴いて数歩移動してピタッと止まり、じっと大空の一点を見つめると、とつぜん落ち葉を払いのけ木の実やミミズをついばみます。熟した柿の木にも群れで集まってきます。春渡っていくころ、囀りの練習をしていることがあります。大量に密猟されたこともありました。



3. カシラダカ Emberiza rustica (冬鳥)

スズメくらいの大きさ。頭の羽(「冠羽」)を立てると頭が高く見えるところから名前がついたと言われています。胸から脇にかけて茶色い縦線があり、無地のホオジロと見分けられます。 どんなタカだろうかと尋ねられることがあります



2. アオジ Emberiza spodocephala (冬鳥)

スズメくらいの大きさ。平地の茂みや草むらなどのうす暗い所でよく群れていて、昆虫や草の実をついばんでいます。 人が通ると一斉に近くの木の枝にとまってやり過ごしたり します。チッチッチッなどと鳴きます。



4. メジロ Zosterops japonicus (留鳥)

スズメより小さい。目の周りの白色がかわいい。秋から冬には、シジュウカラなどのカラ類やエナガ、コゲラなどと 混群を作って行動します。昆虫をとって食べますが、ツバキ、サザンカ、ウメやサクラなどの花の蜜を吸い、熟柿に も集まります。チーチーチーチーなどと鳴きます。



吉野川 ・紀の川流域の遺跡

歴史担当の成瀬匡章が、 吉野川・ 紀の川流域の遺跡について紹介します

ませんでした。 筏流しには難所以外のなにものでもあり のであれば名所には違いありませんが、 楽しんでいます。しかし、風景を楽しむ 流れる吉野川は、 1801) も、足を伸ばしてこの風景を 1694) や本居宣長(1730 大台ケ原に源を発し、北に向かっ 吉野山を訪れた松尾芭蕉(164 碑のある鎧掛岩から、 吉野川の激流は岩場を抉 「土倉翁造林頌徳記 東に流れを

見られます。完工は明治6(1873) 易くする溝が開削され、 宮滝までの河川改修が終了しています。 年で、翌年には川上村北和田から吉野町 ているので、その頃に工事が始まったと 川上郷水陸海路会所という組織を設立し す。 庄三郎は明治5(1872)年に、 が土倉庄三郎(1840~1917)で が拡張されました。その中心となったの から寛文3(1663)年に、筏を曳き 大滝地区に到達した筏は、 筏に乗ったまま越えられるように溝 岩の上を曳かなくてはいけません そのため万治3 明治時代に入る $\begin{pmatrix} 1 & 6 & 6 & 6 \\ 6 & 6 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ 川から引き 年

割滝を流れる筏 年〜大正7(1918) 図1 (1906) 明治 40 年頃

機械が無い時代に大変なスピード工事が 行われたことが分かります。

頃発行の絵葉書には「割滝」と印字され 溝の名称は記されていません。明治40 ているので、その頃には 工事の顛末が記録されていますが、この 1 9 0 6 『吉野林業全書』(1898年) 年~大正7 (1918) 「割滝」という には、

> うになりました。 ができると、筏はその水路で運ばれるよ 上村大滝から吉野町楢井まで発電用水路 名前で呼ばれていたことがわかります。 その後、大正12 (1923) 年に、 Ш

です。 異なっているのかもしれません。 を示しています。もしかしたら現在の姿 削岩機が使用されたのは、 を使用した痕跡が見られます。 完成後も拡幅・修繕が続けられた可能性 (1886) に栃木県の足尾銅山が最初 割滝」内部を観察すると、 庄三郎が目にしていたものとは少し 「割滝」に痕跡が見られることは 明治19 日本で 削岩機



図2 削岩機の痕跡



芳水塾による割滝調査風景 (2017年7月12日) 図4



図3

のもあります。 に関わる遺構を所々で見ることができま 吉野川には 「 ぽ た り」 日本遺産の構成遺産になっているも 23 号 「割滝」のような、 (24年3月) 吉野林業の遺産と で紹介し 筏流,

参考文献 た木馬道などと共に、 して光を当てていきたいものです。

三好新八 「土木学会誌』 第十一巻 九二五 「鑿岩機に就いて 第





て記録にまとめました みんなで観察し

りの会さんとの交流会として、 環境省近畿地方環境事務所、奈良県景観・ にゴイシツバメシジミ自然観察会(後援 ゴイシツバメシジミは奈良県(川上 今年で3年目となった山野草の里づく 熊本県、宮崎県に生息するシジミ 川上村))を実施しました。 7 月 21 日

7月21日(土



トガサワラぼっくり(球果)観察中

最も高い絶滅危惧IA類、 環境省レッドリストでは、 てきました。 護増殖事業計画 (文部科学省、農林水産 なマニアや業者による違法な採集です。 くなっています。減少の主な要因は悪質 ウノトリと同じ扱い)に指定されていま よる国内特定希少野生動植物(トキやコ チョウ科のチョウで、 川上村では、平成9年に策定された保 モニタリングなどの調査が実施され 奈良県、 環境省) に基づき、生息状況等の把 宮崎県では近年確認できな 国の天然記念物 種の保存法に 絶滅リスクが

51 種、

維管束植物94種、コケ植物12種

れてきませんでしたが、その結果、 域における生き物の本格的な調査は行 まとめを行いました。これまで、この 館スタッフがあたりました。

観察した生き物は参加者で記録して、

阪府立大学教授・副学長)、

尾上聖子さ

(奈良植物研究会)

及び森と水の源流

ど全部で165種を記録しました。

ゴイ

には、 虫生態写真家)のほか、 の調査を行っている伊藤ふくおさん て、 今回は、村からの一般参加8名を含め 39人の参加者で実施しました。 長年当地でのゴイシツバメシジミ 石井実さん 講師 大 (昆

> この場をお借りして、御礼申し上げます みなさん、ご協力いただいた関係各位に

たが、貴重な成果となりました。

最後になりましたが、調査にご参加

シジミを見つけることはできませんでし

ました。

今回の調査では、ゴイシツバメ

き物が生育・生息していることがわかり

シツバメシジミ以外にも多くの貴重な牛

アオスジアゲハ、アカウシアブ、アカタテハ、アキ アカネ、アブラゼミ(抜け殻)、アリバチの仲間、イシアブの仲間、 ウラギンシジミ、オオクロナガオサムシ、オシオカラトンボ、オオ マルハナバチ、オバボタル、カラスアゲハ、キイロスズメバチの巣、 キオビエダシャク、キマワリ、クロヤマアリ、コアオハナムグリ、 コニワハンミョウ、コマユバチの仲間、シオヤアブ、ツマグロキン バエ、テングチョウ、トラマルハナバチ、トンボの仲間、ナツアカネ、 ナミアゲハ、ニホントビナナフシ(幼虫)、ニワハンミョウ、 アブの仲間、ハナノミの仲間、ヒグラシ、ヒメトラハナムグリ、ヒ ラタアブの仲間、ヒラタシデムシ(オオヒラタシデムシ?)、ヒロ バネヒナバッタ、フクラスズメ、フタオカゲロウの仲間、プライヤ シリアゲ、ベッコウヒラタシデムシ、ホソアシナガバチ、マメコガネ、 ミスジチョウ、ムカシハナバチの仲間、ムカシヤンマ、ムネアカオ オアリ、ムラサキシジミ、ヤマトシジミ、ヤマトフキバッタ(オス)、 ヨコバイの仲間、ルリシジミ

(コケ植物) 苔類: ジャゴケ/ミズゴケ類: コバノホソベリミズゴケ/蘚類: オオシラガゴケ、 オオスギゴケ、キヨスミイトゴケ、シッポゴケ、セイタカスギゴケ、タマゴケ、トヤマシノブゴケ、ヒロハシ ノブイトゴケ、ホウライスギゴケ、スギゴケの仲間<mark>(シダ植物)</mark> イワヒメワラビ、ウチワゴケ、ウラジロ、 オオコケシノブ?、オオバノイノモトソウ、オオバノハチジョウシダ、オニヒカゲワラビ、クジャクシダ、コ ウヤコケシノブ、シシガシラ、シシラン、シノブ、スギナ、ヒカゲノカズラ(種子植物)アカガシ、アカメガシワ、 アクシバ、アケビ、アケボノソウ、アセビ、アワブキ、アワモリショウマ、イイギリ、イタヤカエデ、 イワタバコ、イワナンテン、イワヒメワラビ、ウスギヨウラクツツジ、ウチワゴケ、ウツギ、ウバメガシ、ウ ラジロガシ、ウリカエデ、ウワバミソウ、エゴノキ、エゴマ、オトギリ、オニタビラコ、オニドコロ、カイナ ンサラサドウダン、カキノキ、カタヒバ、カラスザンショウ、キッコウハグマ、キブシ、クマシデ、クマノザクラ?、 クリ、コアカソ、コアジサイ、コシアブラ、コバノイシカグマ、サツキ、サワグルミ、サワシバ?、サワヒメスゲ、 シシガシラ、シシンラン、シラキ、ズイナ、タカノツメ、タケニグサ、タチシノブ、ダンドボロギク、 ツクバネガシ、ツルグミ、ツルリンドウ、トガサワラ、ナシ?、ネジバナ、ノブドウ、ノリウツギ、 フサザクラ、 ホオノキ、ボタンヅル、マメヅタ、マルバウツギ、マルミノヤマゴボウ、マンネングサ、ミチツツジ、ミツバアケビ、 ミヤコミズ、ムラサキシキブ、モチツツジ、ヤマザクラ、ヤマノイモ、ユズリハ、ヨウシュヤマゴボウ、リョ



3. オキアミトラップは不発に終わりました



ソバの種まきを教えてもらって、一緒に

水田 を 実感する1日となりました 、お米を 開始 然と人が仲良く関わることの大切さを なさんからは、 深めました。 草の里づくり 食は持ち寄り逸品をいただきながら山 自然解説などもできるようになり、 ました。 間で交流の2回目を桜井市 日や里山 〇法人山野草の里づく から3年の成果も出てきました。 加 恵み、 ふんだんにふるまっ 源流学の森づくり隊からは 0 自然観察を行いました。 源流館スタッフによる現地 蕎麦の種まきの手伝 里の恵みに感謝しつつも Щ Ó 活動で収穫 野草の里づ 会の皆様と歓談 りの くりの会の した野菜類 三谷で実 7 いただ 心交流 ٤ 自 交

> **AQUA SOCIAL FES!! Presents** 8月4日 きれいな吉野川を未来に残そう~ 生生



する

「源流学の森づくり」

と

桜井市一

上村で吉野川源流を守るために活

で大和川源流を守るために

活

動 する

8月25日

お昼は採れたて新鮮野菜が並ぶ大変豪華なバイ キングになりました。

冷たくてきれいな川でガサガサとザルで 水生生物を採集しました。

調

結

果

天候:晴れ 調査地点:音無川あきつ橋付近 午前の部 10:25 ~ 10:55 気温 35℃ 水温 24℃ 午後の部 13:55 ~ 14:20 気温 33℃ 水温 24℃

きれいな水(14種) カジカガエル(オタマジャクシ、 成体)、ニッポンヨコエビ、カワヨシノボリ、サワガニ、ナ ベブタムシ、ヒゲナガカワトビケラ、ヘビトンボ、ミルン ヤンマ、ニンギョウトビケラ、カミムラカワゲラ、オジロ

物の

)観察と環境学習を行いました。

 \tilde{O}

吉野川の支流、

音無川

で水生生

回

として、 W

谷幸三さんの指

PRESENTS

「きれ

な吉野川

を未来に

あ h

午

前

午後と併せて1

参 動 弾車さ 加

が

Ļ 良

りました。

今年

} 4

自

0)

協賛

で、

TOYOTA

SOCIAL Ξ 9 タ 名の

サナエ、モンキマメゲンゴロウ、クロサナエ、フタスジモ ンカゲロウ、ミヤマカワトンボ

ややきれいな水(10種)

カワニナ、アブラハヤ、カワムツ、シロタニガワカゲロウ、 ダビドサナエ、コオニヤンマ、ヤマトクロスジヘビトン ボ、シロフアブ、アサヒナカワト

らは、 ティ 水であることがよくわかりまし 奈良トヨタ自動車、 特に ア 引き続き水質が安定してきれ あり スタッフとしてご協力いただきま 暑 部品奈良共販、 トヨタ奈良の各社からボラン がとうござい い夏でしたが、 トヨタカロー ました。 奈良 水生 トヨ 生物

ラ奈

谷先生の楽しくてためになる環境学習会

よごれた水(1種) ガガンボ たいへんよごれた水(0種)

源流人とはかけがえのない水を生む 源流の自然を愛し、源流を守り、育てる人です

集い、話し、遊び、学び、考え、触れ、交流し、 参加し、喜びを分かち合いながら、 源流を守り、育ててゆこうとする会です

ともに源流学を楽しみ学ぶ仲間 を紹介ください

2,000円3,000円 家学生 年会費 1,000円 団体 10,000円

郵便振替 00940-1-331163

オオカマキリ:ファイティングポーズを取っていました。

にご協力ください

相

は、

ありがとうございました。

平成29年度、243,317円の森守募金をお預かりしました。 奈良県内すべてと、和歌山県内の紀の川流域市町村の小学

4年生全員に配布した教材印刷費や源流域での 斜面崩壊対策費用にあてさせていただきました。 今後ともご支援をよろしくお願いします。

郵便振替 00950-2-331164 「水源地の森守募金」あて

発行日:平成30年12月発行 発行所:公益財団法人吉野川紀の川源流物語 森と水の源流館 TEL:0746-52-0888